研究区分	教員特別研究推進　国際共同研究・国際交流の促進

研　究 テーマ	持続可能なグローバル看護教育プログラムへの取り組み				
研究組織	代　表　者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸　まゆみ
	研究分担者	所属・職名	オレゴン健康科学大学 看護学部・講師	氏名	Ruth Tadesse
		所属・職名	タイ国立コンケン大学 看護学部・講師	氏名	Juraporn Tangpukdee
	発　表　者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸　まゆみ

講演題目

オンラインと対面実習を組み合わせた持続可能なグローバル看護教育プログラムの再構築と展望

研究の目的、成果及び今後の展望

【研究の目的】

現代の大学教育において、グローバル教育は重要な要素となっている。本研究は、特に看護分野におけるグローバル教育の持続可能な形態を模索することを目的とした。2018 年度から 2022 年度に実施された Collaborative Online International Learning（COIL）プロジェクトを通じて、米国、タイ、モンゴルの看護大学との連携を深化させ、その実践に基づき過去の教育的取り組みを評価し、再構築に向けた方策を検討した。また、国際保健、災害看護分野での共同授業やワークショップを展開し、持続可能な教育プログラムの確立を目指した。さらに、現地実習やワークショップを通じて、学生と教員の国際的な協働学習を促進した。

【研究成果】

2024 年 4 月から 6 月にかけて、月 2 回のオンライン会議で目標①（過去の教育的取り組みの省察・評価）を実施した結果、これまでのグローバル教育プログラムの評価が深まり、改善点が明確となった。この評価を基に、本学部の 2 年生または 4 年生対象の科目において、米国との年 3 回（6 月、8 月、12 月）の COIL 授業および米国・タイとの合同 COIL 授業（7 月）を実施し、目標②（持続可能なグローバル看護教育プログラムの再構築）に向けた実践が進展した。これにより、グローバル教育の持続可能性が向上し、文化的能力や国際的協働学習の重要性が再確認された。オンライン学習環境を活用し、複数国の学生が参加する機会を提供できた。さらに、タイのコンケン大学で実施した国際保健看護実習（9 月）では、COIL 授業で得た知見を基に、両国の学生および教員が参加するワークショップを開催し、異文化理解や医療格差への認識を深めることができた。この交流により、協働学習と相互理解が促進された。なお、モンゴルの協定校は今年度の COIL 授業に参加できなかったが、今後はモンゴルとの連携強化を目指していく。

【今後の展望】

今後は、グローバル看護教育プログラムの拡充と、多国間での協働学習機会の提供を目指す。特に、対面学習とオンライン学習を融合させたハイブリッド型教育手法を導入し、オーセンティックラーニングの機会を提供することが重要である。また、他国の看護教育機関との連携を強化し、学生・教員交流を促進するためのワークショップや実習を実施し、グローバルな看護者の育成に貢献することを目指す。モンゴルとの再連携に向けて、定期的なオンライン交流の機会を設け、COIL 授業や現地での実習を組み合わせたプログラムの実施を検討する。また、COIL 型授業に依存しない資金調達方法や運営モデルを構築し、持続可能なグローバル教育プログラムを確立することが課題である。